

ciné-là 12

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

fiaf

国際フィルム・アーカイブ連盟=FIAPは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAPの会員です。

December.2010 vol.168

死者の書



狂言・野村万藏 一技とこころー



わが心の朝



特別企画

桜映画社の足跡 Part2

桜映画社の歴史

五十年以上に渡つて文化映画・教育映画の秀作を製作し続ける
桜映画社の設立から近年までの代表作を特集。

50年以上に渡って文化映画・教育映画の秀作を製作し続ける
桜映画社の設立から近年までの代表作を特集。

桜映画社の足跡 Part2

桜映画社の歴史

会期:12月1日(水)~12月25日(土) ※休館日・休映日除く

観覧料:600円(大人)/500円(大学生・高校生)/400円(中学生・小学生)

協力:桜映画社

※定員制、各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※障がいの方及び福岡市在住の65歳以上の方は300円。(手帳の呈示が必要です。)

※「わの会」会員は300円(会員証の呈示が必要です。)

プログラム1 桜映画の始まり

12/9(木)
14:00 | 18(土)
11:00

さようなら蚊とはえさん

1955年/ビデオ/モノクロ/ドキュメンタリー/21分/桜映画社
監督:青山通春

当時環境衛生の大きな問題だった蚊とハエの駆除をテーマとした公衆衛生啓蒙作品。農村の蚊やハエの生態を説明し、ハエ取り紙・ハエ叩き・肥溜め・蚊帳をはじめ、当時の暮らしよりも収録。桜映画社の記念すべき第一作。



百人の陽気な女房たち

1955年/ビデオ/モノクロ/劇映画/30分/桜映画社
監督:青山通春

都会の裏町で、子供が疫病になり、不衛生な街の環境が伝染病の原因と分かる。子どもの健康や安全な遊び場づくりのために、町内の婦人会が中心に街の清掃活動が始まる。「さようなら蚊とはえさん」の都会編。



おやじの日曜日

1959年/ビデオ/モノクロ/劇映画/29分/桜映画社
監督:金子精吾

造船所で働く上野は、日曜日に子供達を映画に誘う。ところが子供は動物園が良いと言い、上野動物園に行くことに。そこから子供達がお父さんのために考えた、驚くような日曜日が始まる。



プログラム2 桜映画初期の秀作

12/8(水)
14:00 | 18(土)
11:00 | 23(木・祝)
11:00

愛することと生きること

1959年/16ミリ/モノクロ/劇映画/50分/桜映画社
監督:木村莊十二

19歳の売春婦たか子は自殺を図り、婦人相談員に助けられる。たか子と夫の実は、相談員に助けられながら、更生の道を歩き始める。教育映画コンクール最高賞などを受賞した、売春防止の啓蒙映画。



和菓子

1965年/ビデオ/カラー/ドキュメンタリー/26分/桜映画社
監督:村山英治、米内義人、木塚誠一

和菓子の歴史をたどり、ただのおやつだった菓子が、京都や江戸の和菓子職人により工芸品のような美しさを獲得していく過程を描く。まるで和菓子の美術史である。



女王蜂の神秘

1962年/ビデオ/カラー/ドキュメンタリー/33分/桜映画社
監督:樋口源一郎

映画スタッフが一年間に渡りミツバチの生態を記録した作品。ミツバチ社会の仕組みを科学的に解き明かした科学映画の金字塔で、映画作家樋口源一郎の代表作。



プログラム3 アジアの女性達

12/10(金) 11:00 | 19(日) 11:00

カラモアンわが村—フィリピンの村人たち

1980年/16ミリ/カラー/ドキュメンタリー/34分/桜映画社
監督:村山正実

ルソン島南部のカラモアンは陸の孤島と言われる辺鄙な村。マニラから週一回やって来るロア医師を中心に、村の子供達の寄生虫駆除や家族計画など、保健活動が広がり暮らしが改善される様を描く。



インドネシアの母たち

1977年/16ミリ/カラー/ドキュメンタリー/32分/桜映画社
監督:村山正実

インドネシア、ジャワ島中部の農村に暮らす40歳の女性の生活を中心、村に保健衛生と家族計画を持ち込む様子を描く。人々の考え方や伝統文化が描かれる。



スマトラ物語

1978年/16ミリ/カラー/ドキュメンタリー/34分/桜映画社
監督:村山正実

インドネシアのスマトラ島の炭鉱町サフルントやタラビ村など、いくつかの村での保健衛生を中心とした生活改善の運動を描く。スマトラ島の様々な伝統文化と、人々の素顔が描かれている。



プログラム4 アジアの女性達

12/9(木)
11:00 | 18(土)
17:00

山岳民族の女たち

1991年/16ミリ/カラー/ドキュメンタリー/25分/桜映画社
監督:吉野篤

東南アジアの山岳地帯に住むアカ族の村の生活を、女性を中心に描いた作品。少数民族の伝統的な生活を紹介し、その土地の人々にとって望ましい援助とは何かを考える。



プログラム5 日本の伝統芸能

12/5(日)
14:00 | 17(金)
11:00 | 25(土)
14:00

世阿弥の能

1991年/ビデオ/カラー/ドキュメンタリー/49分/桜映画社
監督:村山正実

日本の古典芸能である能の基本を確立した世阿弥の生い立ちから、創作の秘密などに迫った作品。「自然居士」「清経」「井筒」「融」「砧」といった能の舞台を描く。教育映画最優秀作品賞・文部大臣賞、キネマ旬報1位など受賞。



文楽への誘い

1998年/ビデオ/カラー/ドキュメンタリー/34分/桜映画社
監督:村山正実

人形浄瑠璃文楽の魅力を解説し、その歴史から代表的作品などを紹介、鑑賞の手引きとする目的で作られた作品。舞台裏の人々の仕事も描かれている。現代を代表する名人達による「平家女護島」「曾根崎心中」の舞台が描かれる。



プログラム6 日本の伝統芸能

12/5(日)
11:00 | 10(金)
14:00 | 25(土)
11:00

歌舞伎の立廻り

1981年/16ミリ/カラー/ドキュメンタリー/34分/桜映画社
監督:藤原智子

歌舞伎のタテ師、人間国宝・板東八重之助による歌舞伎の見せ場「立廻り」「タテ」の基礎訓練、若手への指導、演出の過程などを描いた作品。国立劇場での研修生の教材として制作されたもので、一般には見ることの出来ない稽古風景などが描かれている。



狂言・野村万蔵—技とこころ—

1999年/16ミリ/カラー/ドキュメンタリー/50分/桜映画社
監督:村山正実

能と共に室町時代に生まれた、日本最古の喜劇である狂言の魅力を、和泉流を代表する狂言師で人間国宝の七世・野村万蔵の舞台を中心に、常に創意・工夫を怠らない日常生活も描いた作品。文化庁優秀映画大賞、キネマ旬報第2位など受賞。



母たち

1990年/16ミリ/カラー/ドキュメンタリー/54分/桜映画社
企画・構成:村山英治

インドネシア、フィリピン、バングラデシュ、メキシコの貧しい村に暮らす女性を描いた作品。子供達の健康と幸せを考え、懸命に働く中から、自立に目覚めていく母親たちの姿は感動的である。



プログラム7 有田焼の美と伝統

12/3(金) 11:00 | 12(日) 11:00 | 24(金) 14:00

色鍋島

1973年 / 16ミリ / カラー
ドキュメンタリー / 29分 / 桜映画社
監督:村山英治



佐賀・鍋島藩主が朝廷などに献上した色絵磁器「色鍋島」。国の重要無形文化財に指定された「色鍋島」の歴史と完全分業された制作工程を記録し、手仕事の伝統の厚みとそれを守り伝える職人の姿勢も記録した作品。芸術祭大賞、キネマ旬報ベストテン2位など受賞。

十三代今右衛門 薄墨の美

1994年 / 16ミリ / カラー / ドキュメンタリー / 36分 / 桜映画社
監督:村山正実

十三代今右衛門は、有田焼の色絵磁器「色鍋島」の窯元に生まれた。伝統の技法を継承する一方、「薄墨」などの新しい技法を用いた作品を創作する姿を記録した作品。教育映画祭優秀作品賞など受賞。

白磁—井上萬二のわざ—

2009年 / 16ミリ / カラー
ドキュメンタリー / 35分 / 桜映画社
監督:村山正実



重要無形文化財「白磁」の保持者(人間国宝)井上萬二の白磁の制作工程を通して、そのわざと人を描いた作品。「白磁花形染麦彫文鉢」の造形から完成までが細かく記録されている。教育映像祭最優秀作品賞・文部科学大臣賞など受賞。

プログラム10 九州・沖縄を描く

12/4 14:00 | 16(木) 11:00 | 24(金) 11:00

私たちの美術館 北九州市立美術館

1976年 / 16ミリ / カラー / ドキュメンタリー / 20分 / 桜映画社
監督:村山正実

北九州市に誕生した新しい美術館では、市民と一緒に活動が特徴で、この映画は、北九州市の企画で作られた、地方の公共施設のひとつ指となりました。

沖縄の母たち

1970年 / 16ミリ / カラー
ドキュメンタリー / 30分 / 桜映画社
監督:大島善助



本土復帰直前の矛盾に満ちた沖縄の現状を、美しい風土と共に、そこに暮らす母親を中心に記録した作品。アメリカ占領下の沖縄で、子どもに未来をかける母達を心をこめて描いた貴重な記録。

有明海の干潟漁

1989年 / 16ミリ / カラー / ドキュメンタリー / 33分 / 桜映画社
監督:大島善助

日本最大唯一の泥状干潟である有明海に生息するムツゴロウを中心とする生き物たちを紹介し、独自の干潟の漁法で魚や貝をとる漁民の貴重な漁撈習俗を記録した作品。教育映画祭最優秀作品賞・文部大臣賞、キネマ旬報第1位など受賞。

プログラム13

12/2 14:00 | 12(日) 14:00 | 23(木・祝) 14:00

死者の書

2005年 / ビデオ / カラー / アニメーション / 70分

桜映画社=川本プロダクション
監督:川本喜八郎 声の出演:宮沢りえ、江守徹、黒柳徹子ほか



奈良時代。藤原南家の娘、郎女(いらつめ)は、二上山の上に荘厳なおもかげを見て、導かれるように山の寺に向かう。山の上には非業の死を遂げた大津皇子の墓があり、郎女はその亡靈を、一途な信仰で鎮めようとする。

原作は民俗学者、歌人、詩人であった折口信夫が戦争中に発表した幻想文学の傑作。本作はそれを今年8月に亡くなった、日本を代表する人形アニメーション作家、川本喜八郎が映像化したもの。奈良の都を再現した見事な美術、人形達の美しい表情、幻想的で緊迫感溢れる演出など世界各国のアニメーション映画祭で絶賛された傑作である。なお、郎女の声は宮沢りえが担当している。

**プログラム8 アニメーションと劇映画の傑作選**

12/4(土) 17:00 | 15(水) 14:00 | 22(水) 11:00

たすけあいの歴史—生命保険のはじまり—

1973年 / 16ミリ / カラー / アニメーション / 30分 / 桜映画社
監督:杉井ギサブロー

生命保険の仕組みがどのように始まり発展してきたのかを、ユーモア一杯のアニメーションで解説した作品。完成度の高い作品で桜映画社の最初のアニメーション映画。

**家庭の年輪**

1965年 / 16ミリ / カラー / 劇映画 / 64分 / 桜映画社
監督:堀内甲

戦後の経済成長の中、狭い団地の中に子供達に気兼ねしながら同居する孤独な老人の姿を通して、若者と老人との心の摩擦をリアルに描き、生きる張り合いとは何かを考えさせる、老後の生活に希望を込めた心を打つ作品。教育映画祭最高賞・文部大臣賞受賞など受賞。

**プログラム11 日本の伝統工芸**

12/2 11:00 | 11(土) 11:00 | 22 14:00

芭蕉布を織る女たち—連帯の手わざ—

1981年 / ビデオ / カラー / ドキュメンタリー / 30分 / 桜映画社
監督:村山英治

沖縄で最初に重要無形文化財の指定を受けた芭蕉布とそれを織る女性たちを記録した作品。平良敏子さんを中心に女性達が工房で作業する芭蕉布づくりの工程を追い、その連帯の手わざを、美しい風土を背景に描く。

**伊勢型紙**

1977年 / ビデオ / カラー
ドキュメンタリー / 30分 / 桜映画社
監督:村山英治

江戸時代からの染めの型紙の产地、三重県鈴鹿市白子と寺居に残る型紙職人の伝統の技を見事に記録した作品。手仕事のすばらしさ、かけがえのなさを訴えかける。芸術祭大賞、キネマ旬報第1位など受賞。

芹沢鉢介の美の世界

1984年 / ビデオ / カラー / ドキュメンタリー / 35分 / 桜映画社
監督:村山英治

「型絵染」の重要無形文化財保持者である染色作家・芹沢鉢介の、美しい色彩に溢れた作品と、人物を記録した作品。沖縄の紅型に強く影響を受けた民芸色の濃い独特の作風は、世界各地でも愛されている。芸術祭大賞など受賞。

プログラム9 教育映画の秀作選

12/4(土) 11:00 | 16(木) 14:00

ぼくは負けない

1985年 / 16ミリ / カラー / 劇映画 / 31分 / 桜映画社

監督:村山新治

気の弱い5年生の修は学校でいじめられがち。ある日修は「おもちゃ図書館」を知り、そこで子供達と遊ぶ内に、思いやりの心を持ち自信を付けていく。長野県小諸市の「おもちゃ図書館」の活動を舞台にした物語。

**わが心の朝**

1989年 / 16ミリ / カラー / 劇映画 / 53分 / 桜映画社

監督:神山征二郎

高校生と中学生の子供を持つ恵子は専業主婦だが、自分を見つめ直すためにパートで働いてみようとする。ところが忙しい証券マンの夫は賛成しない。堺市の様々な伝統文化を描きながら、女性が働くことについて考えた作品。教育映画祭最優秀作品賞・文部大臣賞受賞。

**プログラム12**

12/3 14:00 | 11(土) 17:00 | 17(金) 14:00

八十七歳の青春—市川房枝生涯を語る—

1981年 / ビデオ / カラー / ドキュメンタリー / 121分 / 桜映画社
監督:村山英治

明治から昭和にわたって婦人参政権の実現、婦人の地位向上のために活動した市川房枝(1893年～1981年)の波乱に富んだ人生を、自らが語った感動のドキュメンタリー映画。



設立当初から女性をテーマに映画制作を行ってきた桜映画社の記念碑的作品。

**プログラム14**

12/1 14:00 | 11(土) 14:00 | 19(日) 14:00

海女のリヤンさん

2004年 / ビデオ / カラー / ドキュメンタリー / 90分 / 桜映画社 / 監督:原村政樹

大阪に暮らす在日一世のリヤンさんは1916年済州島の生まれ。日本で海女の仕事をするために大阪に移り、海女の仕事で身を粉にしながら7人の子供を育てる。リヤンさんの次男、三男、四男は1959年から始まった帰国運動で北朝鮮へ。日本に残った長男と五男は東京で、長女は大阪でそれぞれ暮らしている。韓国にひとり残してきた次女には、朝鮮籍のリヤンさんは國交がないため、長いこと会うことができなかった。2000年6月の南北首脳会談で、1週間だけ、ふるさと済州島へ里帰り。53年振りに次女のものと訪ね、涙の再会を果たす。また北朝鮮に住む三人の息子達家族には、万景峰号に乗って、年老いてからも、沢山のおみやげを携え、訪ねるのだった。



本作は日本、韓国、北朝鮮と家族が離散したリヤンさん一家の歴史をたどる。1966年にリヤンさんの海女の活動を記録した朝鮮通信使研究家、故辛基秀氏が撮影した貴重な映像も挿入した本作は、2004年キネマ旬報文化映画大賞など受賞。

現在95歳になったリヤンさんは、近隣の手助けを受けながらも意気軒昂としたひとり暮らし。在日一世の女性の過酷な労働と、歴史に翻弄されながらも家族を愛し、逞しく生きるひとりの母の姿が鮮明に刻印されたこの映画は必見。

12月

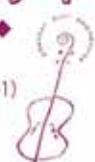
上映スケジュール 099

1・水	14:00 プログラム14 海女のリヤンさん
2・木	11:00 プログラム11 日本の伝統工芸 死者の書
3・金	11:00 プログラム7 有田焼の美と伝統 八十七歳の青春
4・土	11:00 プログラム9 教育映画の秀作選 九州・沖縄を描く アニメーションと劇映画の傑作選
5・日	11:00 プログラム6 日本の伝統芸能2 日本の伝統芸能1
6・月	休館日
7・火	休映日
8・水	14:00 プログラム2 桜映画初期の秀作
9・木	11:00 プログラム4 アジアの女性達2 桜映画の始まり
10・金	11:00 プログラム3 アジアの女性達1 日本の伝統芸能2
11・土	11:00 プログラム11 日本の伝統工芸 海女のリヤンさん 八十七歳の青春
12・日	11:00 プログラム7 有田焼の美と伝統 死者の書
13・月	休館日
14・火	休映日
15・水	14:00 プログラム8 アニメーションと劇映画の傑作選
16・木	11:00 プログラム10 九州・沖縄を描く 教育映画の秀作選
17・金	11:00 プログラム5 日本の伝統芸能1 八十七歳の青春
18・土	11:00 プログラム1 桜映画の始まり 桜映画初期の秀作 アジアの女性達2
19・日	11:00 プログラム3 アジアの女性達1 海女のリヤンさん
20・月	休館日
21・火	休映日
22・水	11:00 プログラム8 アニメーションと劇映画の傑作選 日本の伝統工芸
23・木/祝	11:00 プログラム2 桜映画初期の秀作 死者の書
24・金	11:00 プログラム10 九州・沖縄を描く 有田焼の美と伝統
25・土	11:00 プログラム6 日本の伝統芸能2 日本の伝統芸能1
26・日	休映日
27・月	休館日
28・火	年末年始の休館日
1/4・火	

第300回ユニセフチャリティ・プロムナードコンサート

◆◆◆ 月に一度のお昼休みのクラシックコンサート◆◆◆

日 時：2010年12月24日(金) 12:00～13:00 ※入場無料
 場 所：西日本シティ銀行本店1Fエントランスホール(福岡市博多区博多駅前3-1-1)
 曲 目：シューベルト作曲 弦楽四重奏曲第14番ニ短調「死と乙女」他
 演奏者：福岡ハイドン弦楽四重奏団
 主 催：財団法人福岡文化財団 TEL.092-473-6777



桜映画社について

桜映画社の創立は1955年。戦後の混乱期の中で、娯楽映画は順調に復活していくが、文化映画は次第に上映の場を失い衰退していく。その中で文化映画は学校を中心とした視聴覚教育・社会教育に活路を見出していく。50年には岩波映画製作所が誕生し、この時期教育映画のプロダクションが多数生まれている。

桜映画社はその中で、環境衛生や家庭生活など女性を中心としたテーマで映画を作ることを設立当初から考え、市川房枝などの協力を得て設立された。桜映画社の初期作品には「母と子の桜映画社」というクレジットがある。桜映画社が別名「母親プロダクション」と言われる由来である。

第一作は生活地域の衛生環境をテーマとした『さようなら蚊とはえさん』(55年)で、翌年には劇映画の『今どきの嫁』を制作、ドキュメンタリーと劇映画の両方で制作を始める。子供や女性のための教育映画は創立期から続く桜映画社の大きな柱なのである。その他企業などとの提携で生まれた『女王蜂の神秘』などの科学映画。まだ海外での映画制作が珍しかった時代に『インドネシアの母たち』など東南アジアの生活を紹介し、日本の伝統工芸や伝統文化の素晴らしさを伝える『伊勢型紙』や『世阿弥の能』など芸術色の強い作品を制作、そのジャンルは多岐に及んでいた。さらに杉井ギサブロー監督のアニメーション作品『たすけあいの歴史』、日本を代表する人形アニメ作家・川本喜八郎監督の遺作となつた渾身の傑作『死者の書』など、ドキュメンタリーだけでなく、劇映画やアニメーションの分野でも優れた作品を残してきた。

桜映画社50年の歴史は日本の伝統や文化、生活、そして何より女性と子供を描いた50年である。



さようなら蚊とはえさん

■映像ホール利用申込みについて

映像ホール・シネラでは自主上映(非営利に限る)を希望される方について、下記のとおり利用申し込みの受付を行います。

■利用の申し込み対象期間：平成23年6月～平成23年11月まで
 ※別途配布の申し込み用紙に対象日を記載しています。

■申し込み受付期間：

平成22年11月21日(日)～平成22年12月3日(金)※休館日を除く

■抽 選 日：平成22年12月4日(土)午前11時より

■抽 選 会 場：福岡市総合図書館3階 第2研究室

■利用申し込み書：

福岡市総合図書館で配布中の申し込み用紙をお出し下さい。

Information

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表) : tel.092-852-0600

映像資料課 : tel.092-852-0608 fax.092-852-0609



福岡市総合図書館映像ホール・シネラ ホームページ

うえぶシネラ <http://www.cinela.com>

Access

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

市営地下鉄

西新駅または藤崎駅下車徒歩15分

西鉄バス

●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分または博物館南口下車徒歩5分

●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分
 ○所要時間は交通事情により異なります。
 バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については西鉄お客様センター[tel.0570-00-1010]に直接お問い合わせください。

